

校内暴力世代

私は1977年に中学校へ入学した。

金沢市内の中学校で1学年14クラスあった。これでもまだ小さくなっただけで、今思えばとんでもない状況だ。当時の自分の目には、いろいろあったが、校内暴力という印象は弱かった。ただ、全国的には校内暴力が多くあった時代（世代）だったようだ。

パソコンで「校内暴力」と検索すると、

『日本で「校内暴力」という場合には、主として1970年代終盤から1980年代序盤にかけて多数の中学校（多くは公立）と一部の高等学校で発生した暴力事件を指すことが多い。』

とある。まさに自分の時代と一致する。

学校が落ち着かない状況になると、授業が成立しなくなるし、先生が落ち着いて生徒と対応することができなくなる。先生と生徒の信頼関係がなくなり、生徒の勝手な行動がまかり通るようになる。中には、「これではいけない、しっかりしないといけない」と思う個人が存在し出すが、学校や先生（大人）を全く信頼しなくなり、善悪感やルールを大切にしない多数が存在し出す。

ヒトは、発達と経験で成長するが、このような無秩序を経験したヒトが大人になるとどうなるか？ 教員になった頃から気になっていた。

さて、自分を含めこの校内暴力世代が45歳から50歳になる。

先週1週間、自分が購読している新聞の社会面にでている犯罪に関わる人間の年齢を調べた。（20歳～67歳までの19人）

20歳～39歳 … 3人

40歳～44歳 … 3人

45歳～50歳 … 6人

51歳～67歳 … 7人

さあ、どうでしょうか？

こんな調査では何ともいえないが、最近40歳台後半から50歳台の起こした事件がとても気になる。

また、この世代が育てた子どもたちが成人し始める。

「校内暴力世代だから」とか「校内暴力世代が育てた子供」といわれない（いわせない）ようにしっかりしないといけない。

また、こんな時代を子供たちに経験させたくないのだから、学校経営や研修をしっかり行っていないといけないと強く感じている今日この頃である。